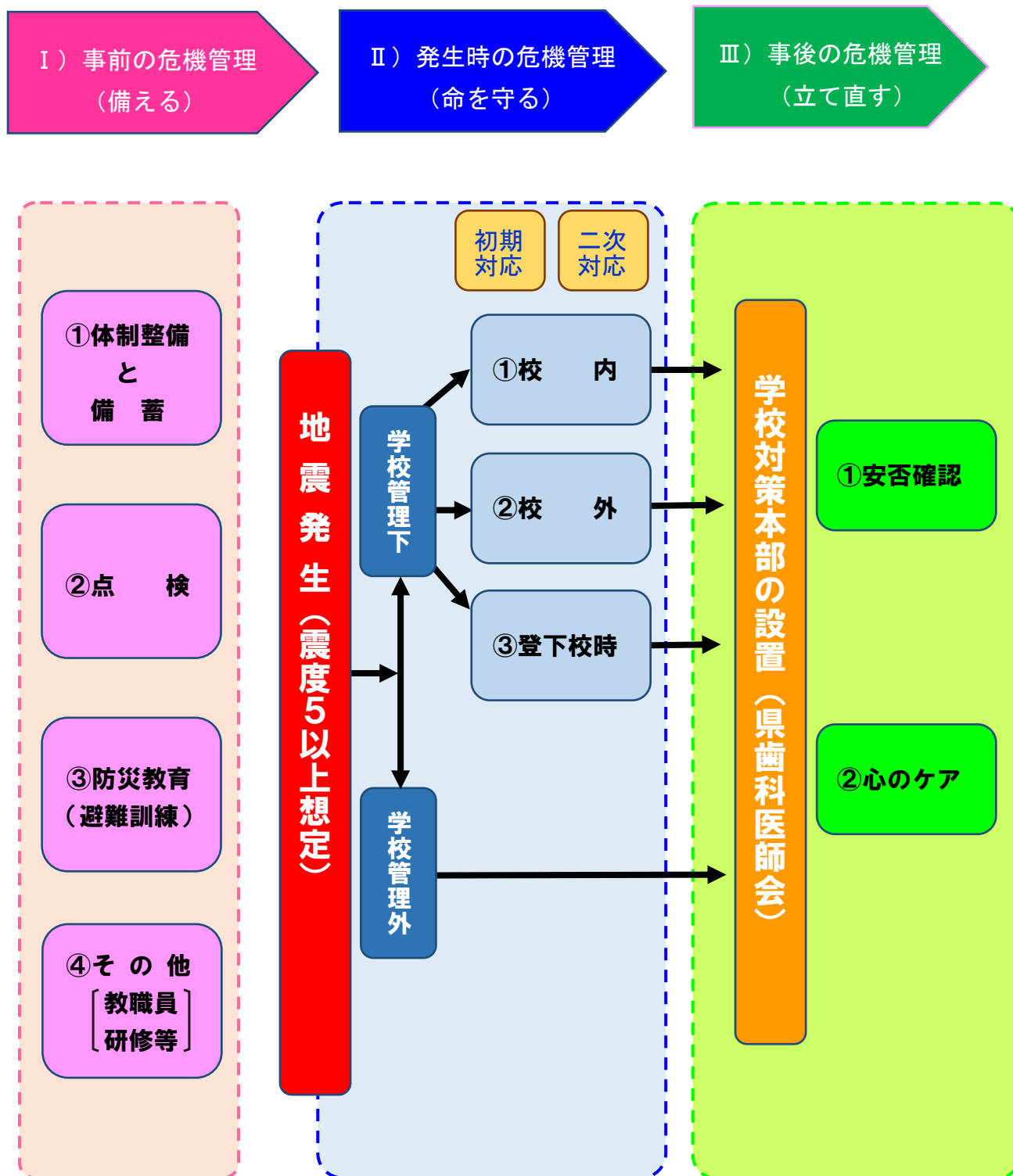


災害対応マニュアル



平成 27 年 10 月
長崎歯科衛生士専門学校
☎ (095) 848-5002

学校防災におけるフローチャート（例：地震）



「事前の危機管理」がその後の対応の全てに繋がる

I 事前の危機管理（備える）

1. 体制整備と備蓄

1) 学校防災担当者の決定

- 適切な安全指導および施設・設備の管理
- 学校の防災体制の推進に必要な計画を検討・策定、実施

担当詳細

長崎県歯科医師会「防火訓練マニュアル」に準ずる

2) 災害対応マニュアルの見直し

- 災害時の状況別の具体的対策案
- 避難経路および第一次、第二次避難場所を想定し、実地確認
- 二次災害の洗い出し

【例】火災・余震による建物の倒壊や非構造部材の落下、転倒、移動・土砂災害
液状化・地盤（沈下、すべり、亀裂、擁壁の崩壊等）・水害（堤防決壊、ダム
の決壊、土砂ダムの決壊等）・原子力災害・雪害

- 学生等の安否確認
- 関係機関への連絡体制の整備

3) 情報・連絡体制の整備

- 円滑かつ的確な情報伝達（一元的な情報の管理）
- 校内における情報管理・連絡体制や災害時に連絡すべき機関のリストアップ等情報連絡体制の整備
- 地域団体との連携

4) 保護者や地域、自治体等と連携した体制づくり

- 各種の機関を通じて、避難所開設運営・学校防災計画の内容・災害発生時の学生の動向や学校の対応等を周知
- 在校時災害における学校への連絡方法の周知や在校外の報告に係る協力の要請

関係機関等との協議・整備内容【例】

- ・学校災害マニュアルの検討
- ・防災訓練等と地域の避難場所・避難所等の確認
- ・災害発生時の避難方法や避難所の運営方法、医療体制等
- ・学生等のボランティア活動
- ・情報通信網が途絶した場合の保護者や関係機関等への多様な連絡方法
（災害用伝言ダイヤル、インターネット掲示板等固定電話以外の様々な手段）

5) 備品・備蓄

- 災害発生時、二次対応時、学校待機時にそれぞれ役立つ物資等のリストアップ
- 被災状況を想定し、保管場所を設定

2. 点検

1) 学校施設、設備、避難経路、避難場所等の点検・整備

○非構造部材点検項目

- ・天井・・・・・・・・天井材（仕上げボード）に破損等の異状は見あたらないか
- ・照明器具・・・・・・・・照明器具に変形、腐食等の異状は見あたらないか
- ・窓ガラス・・・・・・・・窓ガラスにひび割れ等の異状は見あたらないか
- ・外壁（外装材）・・開閉可能な窓のクレセントはかかっているか
外壁にひび割れ等の異状は見あたらないか
- ・収納棚など・・・・・・・・書棚等は取付金物で壁や床に固定しているか

○避難経路・避難場所の点検

- ・分かりやすい案内板や表示があるか
- ・避難経路に障害物はないか
- ・災害種、状況に対応した複数の経路と場所が確保されているか
- ・学校が定めた避難経路、避難場所を学生に周知しているか
(長崎歯科衛生士専門学校の最寄りの避難場所は下図参照)

2) 防災上必要な用品の点検・整備

- 保管場所の把握
- 重要書類等を適切に保管

3. 防災教育の実施

4. その他

教職員研修等



最寄りの避難場所（收容可能人数）

Ⅱ 発生時の危機管理（命を守る）

緊急地震速報受信

- 教員携行の携帯電話等での緊急地震速報受信に、速やかに対応
- 学生等の安全確保
「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ身を寄せる
- 可能であれば校内放送

地震発生

初期対応（学生等の安全確保）

- 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ身を寄せる
- 的確な指示（頭部の保護、机の下等へ避難・机の脚をしっかりと押さえ、その場を動かない等
- 火災等二次災害の防止
- 負傷者の確認（学生→各学年担任→主任）

二次災害からの避難の決定と指示

- 素早い情報収集（ラジオ、テレビ、インターネット等）
- 避難経路の安全確認
- 全校避難指示（※校内放送が使用できない時は、職員同士が大声を出して伝達）
- 余震を想定した迅速な判断と対応
- 臨機応変な判断と対応（※その時々々の状況把握と最も安全な行動選択）
- 学生等を見失わないような、バランスの良い教員の配置）

二次対応（駐車場等への避難）

- 的確な指示（頭部の保護、慌てない、押さない、走らない、喋らない等）
- 教職員の連携
- 学生名簿携行
- 避難場所については建物に耐震状況や天候等も考慮し、複数設定しておく

避難後の安否確認および安全確保

- 人員の確認と安否確認
- 負傷者の確認と応急処置関係機関への連絡

1. 校内

地震発生時における対応 授業中（普通教室）

予想される状況	教職員の対応	学生等の対応
<p>○天井や壁等が割れたり、落ちたりする。 本棚・ロッカー等が転倒する。 蛍光灯・時計・テレビ等が落下する。</p> <p>○学生等が不安や恐怖で泣き叫び、教師の指示が行き届かなくなる。また、恐怖のあまり全く動かなくなったり、自分勝手に行動し始め、パニック状態になる。</p> <p>○教師自身が負傷し、動けなくなる。</p>	<p>【ゆれている時】</p> <p>○「机の下に潜れ！」 「机の脚を持て！」 「大丈夫。先生もここにいる。」</p> <p>○「外へ飛び出さな！」 ※脱出口を1か所以上確保</p> <p>【避難する時】</p> <p>○「けが人はいないか。」 ※負傷者の有無を確認し、応急処置を行う。</p> <p>○「座布団や本で頭を守れ！」 ○「慌てないで、避難しろ！」 ○「エレベーターは使わない！」 ※学生に対して、適切な避難経路を指示して先導する。 ※出席簿等の必要なものを携行し、人数を確認する。</p>	<p>【ゆれている時】</p> <p>○机の下に潜って、机の脚をしっかり持つ。</p> <p>○身を隠す所がない場合は、座布団や身近にあるカバン・本等で頭を覆い、出来るだけ低い姿勢をとる。</p> <p>【避難する時】</p> <p>○教員の指示に従い、「お」「は」「し」を守る。</p> <p>※「お」押さない 「は」走らない 「し」喋らない</p> <p>○座布団等で頭を覆い避難所（駐車場）へ行く。</p> <p>○煙が発生している時は、ハンカチ等で鼻・口を覆い避難する。</p> <p>○エレベーターは使用しない。</p> <p>○クラスごとに整列する。</p> <p>○勝手に家に帰らない。</p> <p>○担任が不在の時は、ほかの教員の指示に従う。</p>

地震発生時における対応 授業中（実習室）

予想される状況	教職員の対応	学生等の対応
<p>○教室の例に準ずる。</p> <p>○薬品棚が転倒し、薬品が散乱する。</p> <p>○薬品等がこぼれる。</p> <p>○アルコールランプやガスバーナーが倒れ、出火する。</p> <p>○火傷等をする危険性がある。</p> <p>○歯科用器具の落下による負傷をする。</p>	<p>※ゆれている時は、教室の例に準じるが、机の下に潜れない場合は、次のように対応する。</p> <p>○「その場にしゃがめ！」 ○「頭を守れ！」 ○「こぼれた薬品に近づくな！」 ○「ゆれがおさまって火を消せ」</p> <p>※消火は学生等の安全を優先的に指示する。</p> <p>※動けないときは、ゆれがおさまってから火を消し、ガスや電気の元栓を閉める。</p> <p>※避難も教室の例に準ずる。</p> <p>※避難の際は、薬品やガラス器具の破片等に注意させる。</p>	<p>○教室の例に準ずる。</p> <p>○教科書やノート等で頭を守る。</p> <p>○薬品によるけがや火事の危険のない場所に身を寄せる。</p> <p>○動けない場合は、ゆれがおさまってから火を消し、ガスや電気の元栓を閉める。</p>

地震発生時における対応 授業中（図書室等）

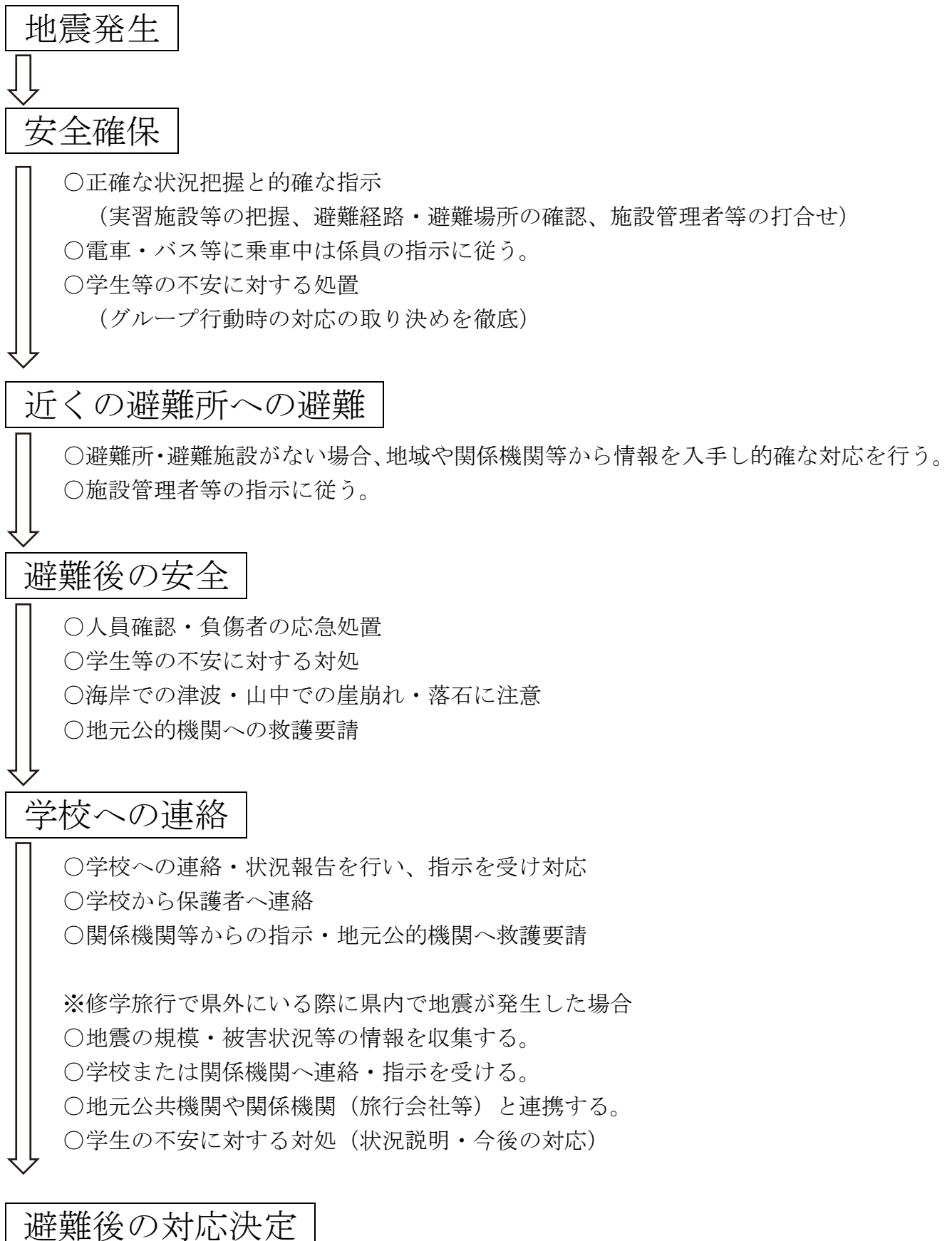
	予想される状況	教職員の対応	学生等の対応
図書室	<ul style="list-style-type: none"> ○本棚が相次いで倒れる。 ○本が次々と落ちてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「部屋の真ん中に行け！」 ○「しゃがめ！」 ○「本で頭を守れ！」 	<ul style="list-style-type: none"> ○近くにある本を持って部屋の中央に行き、出来るかぎり頭を保護してしゃがむ。
体育館・講堂	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館（講堂）では、破損ガラスが飛散する。 ○照明器具・天井固定器具類が落下する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「真ん中へ行け！」 ○「しゃがめ！」 ○「頭の上に手を置け！」 ※全校集合の場合 ○「その場へしゃがめ！」 ○「頭の上に手を置け！」 ※避難する時は、明確に指示を出し、自分勝手な行動を取らせない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館（講堂）の中央に行き、手で頭を保護して、しゃがむ。 ○勝手に体育館（講堂）の外に飛び出さない。 ○避難する時は、頭を守り外に出る。 ○教員の指示に従い、「お」・「は」・「し」を守る。

地震発生時における対応（休憩時）

	予想される状況	教職員の対応	学生等の対応
教室	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の教室の例に準ずる。 ○自由時間のため、自分勝手な行動による混乱が一層起こりやすい。 ○教員が近くにいないため、不安や恐怖をより強く感じ、奇声を発したり、勝手に帰宅する学生が出てくる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送等で安全な避難場所および避難方法を明確に指示する。 ○教職員は出来るだけ早く所定の教室に直行し、校内の学生等を把握する。 ○他学年の学生等は、避難場所において、学年担当に引き渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の教室の例に準ずる。 ○校内放送、その他の通報を静かに最後まで聞き、指示に従い行動する。
廊下	<ul style="list-style-type: none"> ○廊下や昇降口等ではロッカー・戸棚類等の倒壊や掲示板・額縁・ガラスの破片等が落下する。 ○戸や扉の開閉が困難になる。 ○防火扉があるので、転落する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員は出来るだけ早く所定の教室に直行し、校舎内の学生等を把握する。 ○被害状況をみた上で、避難経路を指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送、その他の通報を静かに最後まで聞き、指示に従い行動する。 ○カバンや本で頭を守り、廊下中央でしゃがむ。余裕があれば、近くの教室の机の下に潜りこむ。
階段	<ul style="list-style-type: none"> ○破損ガラス・天井・壁・蛍光灯が落下する。 ○傾斜があるので、転落する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の教室の例に準ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送、その他の通報を静かに最後まで聞き、指示に従い行動する。 ○転落しないように、その場に伏せる。
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ○戸や扉の開閉が困難になる。 ○天井・壁・蛍光灯等が落下する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の教室の例に準ずる。 ○トイレ内に学生がいないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○トイレを使用中は、急いで戸を開けて、落下物に注意してじっと静かにいる。 ○校内放送、その他の通報を静かに最後まで聞き、指示に従い行動する。

2. 校外

基本的な対応



地震発生時における対応（研修旅行・修学旅行等）

予想される状況	教職員の対応	学生等の対応
<p>○車両の脱線・転覆、高速道路の崩壊、建物の外壁・瓦・ネオンサイン等の落下、看板・ブロック塀等の倒壊、ガラス破片の飛散、電線の垂れ下がり、歩道橋の落下、ガソリンスタンド・自動車等の爆発等による危険が起こる。</p> <p>○海岸では、津波・河川の堤防決壊、低地では浸水による水害、埋立地では液状化による建物の崩壊、山間部のがけ崩れ等が起こる。</p> <p>○地理不案内による不安やデマ等に惑わされたりして、心理的な動揺を起ししやすい。</p> <p>○旅館の内外は、校舎内外と同様に落下物や倒壊物等による危険がある。</p> <p>○火気使用中は、火災発生の恐れがある。</p> <p>○夜間の睡眠中、あるいは停電時には、居所不慣れな土地であるので、不安や恐怖が強く心理的動揺をきたし、混乱が起こりやすい。 特に夜間においては、一層不安や恐怖心が高まる。</p> <p>○津波が発生する恐れがある。</p>	<p>○屋内・野外にいた場合は、危険物から遠ざけて集合させる。</p> <p>○人員の確認・把握を行い、引率責任者との連携を十分に行う。</p> <p>○交通機関利用時間は、係員の指示に従い、協力して誘導にあたる。また、列車・バス等の乗車中は、非常コック・非常ドアを確認し、脱出口を確保する。</p> <p>※事前に研修・修学旅行先の状況や避難所の確認をしておくことが大切である。</p> <p>※放送・メガホン等を使用し、あるいは各室へ通報し、避難の方法を明確に指示する。</p> <p>【ゆれている時】</p> <p>○「外へ出るな！」</p> <p>○「ベッドの下に潜れ！」 または「布団の中に入れ！」</p> <p>【ゆれがおさまった時】</p> <p>○「慌てずに、静かに△△に避難・集合しなさい！」</p> <p>※宿舎において、万一の場合を想定して避難方法を必ず指導する。</p> <p>○津波に対しては、速やかな対応が必要である。</p>	<p>○教員から離れず、集団で行動する。</p> <p>○電車・バス等に乗車中は車掌・運転手・職員等の指示に従う。</p> <p>○落下物から身を守る。</p> <p>○狭い場所は道路では、落下・倒壊物に注意し、素早く広い場所に出る。</p> <p>○倒壊現場・火災現場から離れる。</p> <p>○河岸では、津波の恐れがあるため、出来るだけ早く高台に避難する。</p> <p>○その他の場所においても、その時点から出来るだけ速やかに遠ざかる。</p> <p>○避難経路・避難場所・宿舎の周囲の状況を明確に理解しておく。</p> <p>○室内で身の安全を守るための方法を工夫する。 机の下に潜る ベッドの下に潜る 布団で頭部を守る</p> <p>○教員がいない時は、班長の指示で協力して集団で行動する。</p> <p>○避難行動は、指導者の指示により行い自分勝手な行動はとらない。 「お」・「は」・「し」を守る。</p> <p>○避難所に到着したら、班長は人員を確認して、教員に報告する。</p> <p>○屋外に出たら勝手に室内に戻らない。</p>

3. 登下校時

※状況に応じた対応が必要

地震発生時における対応（登下校時）

予想される状況	教職員の対応	学生等の対応
<ul style="list-style-type: none"> ○強いゆれのため、立っていることも歩くこともできない（約1分程度）。 ○建物・電柱等の倒壊が起こり、電線が垂れ下がる状態になる。 ○瓦・外壁・看板等が落下したり、破損ガラスが飛散する。 ○ブロック塀・石垣・自動販売機等が倒壊する。 ○液状化した場所では、泥水や砂の噴出・埋設物の浮き上がりや建造物の傾斜・道路の陥没が起こる。 ○傾斜地では、山崩れ・崖崩れが発生する。 ○海岸部では、津波が押し寄せる。 ○道路が地割れを起こしたり、都市ガスやプロパンガスが漏れ出す。 ○火災の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○出来るだけ速やかに学生の安否の確認を行い、必要に応じて、家庭と連絡を取る。 【事前指導】 ○事前に通学路における危険箇所や避難場所を確認しておく。 ○学生の緊急連絡先を調べておく。 ○原則として、登下校中に地震が起こった場合、自宅か学校か近いほうに向かうよう指導（可能であれば近くの避難場所へ移動）。 ○交通機関を利用する学生等は、関係機関の職員の指示に従うよう指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆれている時は、カバン等で頭を保護してしゃがむ。 ○動くことが可能であれば、狭い路地は避け、樹木の下・繁華街であれば、落下物に注意して、ビル等に速やかに駆け込む。ただし、入り口付近に留まる。 ○事前に避難する場所を決めておく。 ○ゆれがおさまったら、状況に応じて、自宅か学校か近いほうに向かう（判断に迷ったら学校へ向かう）。 ○学校と連絡を取り、状況を報告する。 ○ブロック塀から離れる。 ○海岸・川岸・崖下から速やかに離れる。 ○橋の上は危険なため、速やかに離れる。 ○火事が起きているところから離れる。

Ⅲ 事後の危機管理（立て直す）

地震発生

- 学校管理下以外の場合は教職員の参集
長崎県内で震度6弱以上の地震が発生した場合は教職員は直ちに学校に出勤する。
※本人または家族の負傷等で出勤できない事情がある場合は免除

災害状況把握

- 安否確認
 - ・学生本人の安否および住居の被害状況の確認
 - ・教職員・その他の家族の安否および住居の被害状況の確認
- 学校施設・通学路等の確認
 - ・目視点検を基本とした校舎等の被害状況の確認
 - ・電気・水道・電話の被害状況の確認
 - ・交通機関の運行状況の確認
 - ・危険箇所立入禁止等の危険回避対応
- 災害情報収集
 - ・報道機関等からの地震の規模・余震の可能性と規模等二次災害の危険性の情報収集
 - ・地域の被害状況・危険箇所等の把握及び関係機関への連絡

授業再開に向け、前後策の検討・協議

- 校舎等の被害に対する応急措置、危険度判定調査
- ライフライン・仮設トイレの確保
- 教室の確保
- 通学路（交通機関）の安全確保

保護者への連絡

臨時登校・被災状況調査

- 心理面の安定確保
- 学生等のより具体的な被害状況確認

長崎県歯科医師会との連絡・協議

- 校舎施設・設備の復旧と授業形態の確認
- 教科書等の確保
- 学費の援助等

授業再開

IV 学校災害対策本部の設置

長崎県歯科医師会「防火訓練マニュアル」および「長崎県災害対策マニュアル」に準ずる

1. 安否確認

1) 動員体制と安否確認

動員体制	学区内震度	安否確認	学生在宅時		登下校時
			電話 ○	電話 ×	
なし	震度4以下	×	行わない		行わない
初期動員	震度5弱	状況により判断	電話連絡	家庭訪問 又は 避難所訪問	通学路等 (把握できる 範囲で)
一・二号動員	震度5強	○			
三号動員	震度6弱以上	○			

2) 安否確認の内容(例)

氏名		身体面		精神面			家族の 安否	夜間の 居場所	損失等	
		病気	けが	要注意	配慮	SC希望			制服等	学用品
1	○○○○									
2	○○○○									
3	○○○○									

3) 安否の確認方法 (※一つの手段に限定せず、連絡通信手段の複数化を図ること。)

①電話

- ・携帯電話 (LINE 等の SNS)
- ・固定電話
- ・災害伝言ダイヤルの活用

②インターネット

- ・メール
- ・ホームページの活用

③家庭訪問

- ・不在時にはメモを残す

④その他

- ・地域の団体や組織の活用等

2. 心のケア

基本的な対応方法

- 1) 災害直後は、普段の生活リズムが早期に回復するように支援する。
- 2) 学生の心身の健康観察の徹底および情報に共有を図り、問題の早期解決に努める。
- 3) 地域の復興活動や再建活動参加できるように支援する。
- 4) 精神症状は、現れたり一時的に消失したりすることもあるので、長期に渡る経過観察と支援を行う。

学生緊急連絡通信手段

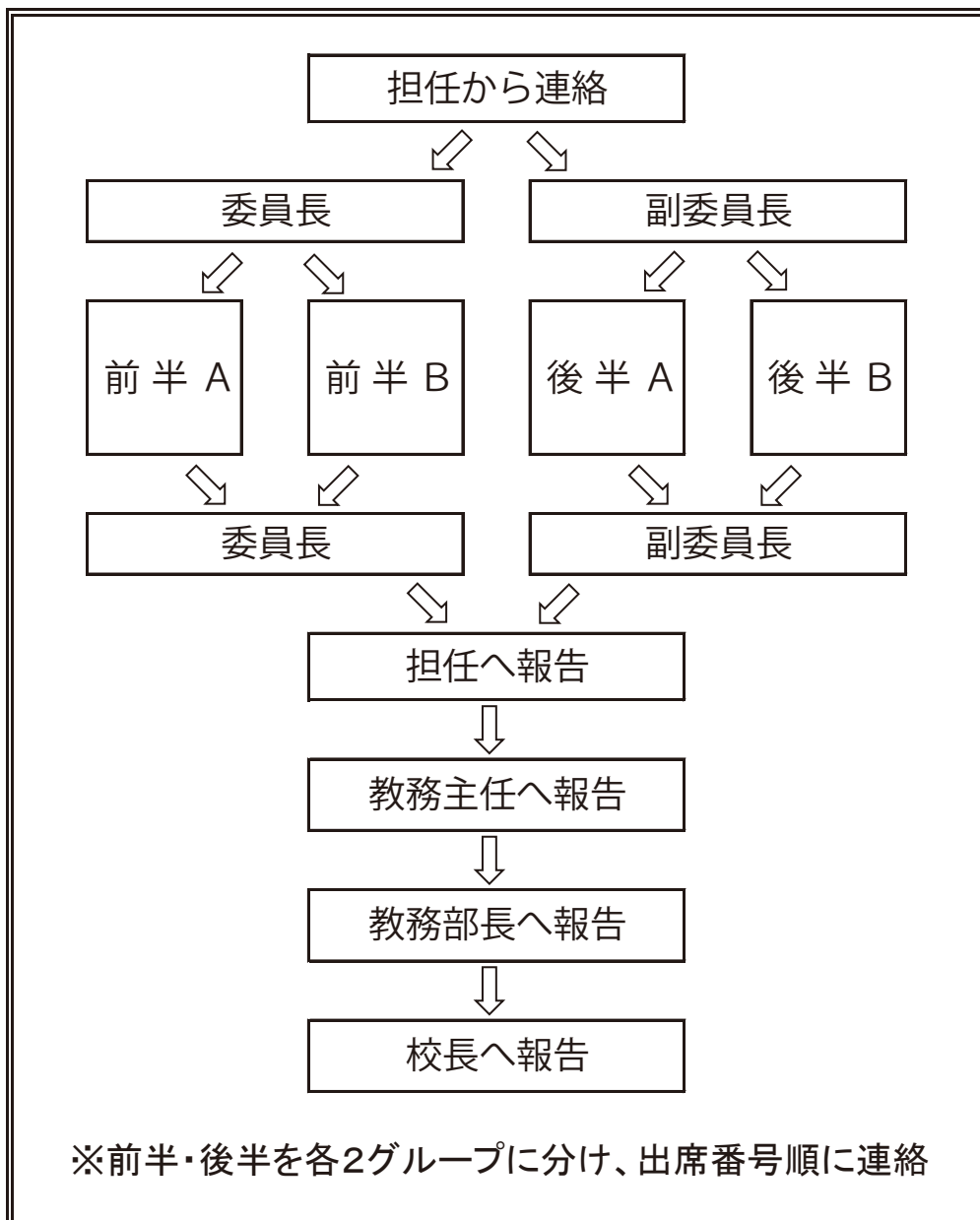
1. インターネット

- ① ホームページに掲載
- ② メールリングリストで送信（携帯電話）

※ 学年別リスト：gakusei-a@nda.or.jp, gakusei-b@nda.or.jp, gakusei-c@nda.or.jp

2. 電話

- ① 携帯電話



- ② 固定電話
- ③ 災害伝言ダイヤル

参考資料

災害伝言ダイヤルの利用法

大災害発生時には、安否確認・問合せ等の電話が爆発的に増加し、電話回線が麻痺することで学校と学生（保護者）の連絡が困難になることが予想される。

そこで、学生（保護者）への対応として、NTT が設置する「171（災害用伝言ダイヤル）」を利用することで安否情報等の伝達の向上を図ることができる。

このシステムは、被災地内の電話番号をメールボックスとして、安否等の情報を音声により伝達するものである。

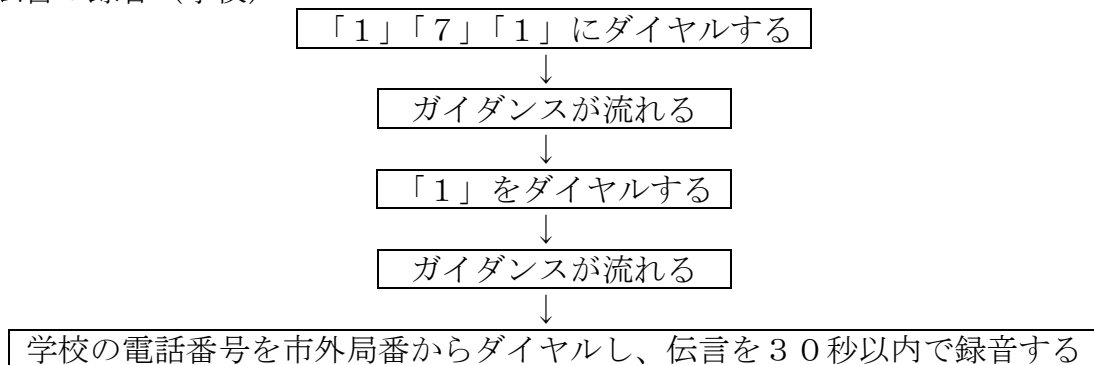
1. 位置のお知らせ

震度6弱以上の地震発生時等にテレビやラジオ等でNTTが「171」を設置した事や利用方法・伝達登録エリア（都道府県単位）等が知らされる。

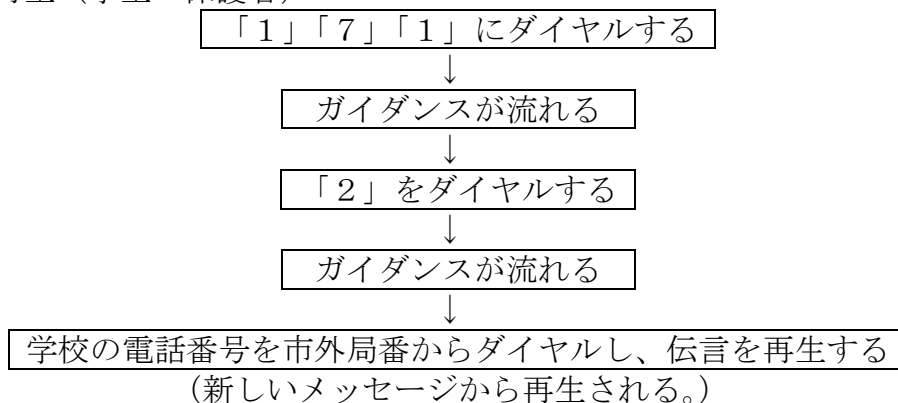
2. 利用方法

固定電話や携帯電話等のあらゆる電話から接続・利用が可能となる。

(1) 伝言の録音（学校）



(2) 伝言の再生（学生・保護者）



(3) 伝言の録音時間・・・1伝言あたり30秒以内

(4) 伝言の保存期間・・・48時間

(5) 伝言の蓄積数・・・1番号あたり1～10件

（群馬県教育委員会事務局「学校災害対応マニュアル」参考）

●火災への対応●

日ごろの 対応

- ・消火器の点検・使用法の確認
- ・避難路の確保

発生時の 対応

- ・天井に火が燃え移った時が避難の目安
- ・煙の中を逃げる時は姿勢を低くして、濡らしたタオル等で口・鼻を覆いながら、炎の中は一気に走り抜ける

避難後の 対応

- ・いったん逃げたら、再び中に戻らない
- ・逃げ遅れた人がいる場合は、直ちに119に通報

●地震時の対応●

地震発生

職員・・・学生の身を守る
学生・・・自分の身を守る

非常口の確保

安全確保・状況確認

学生の安全確認・火元の確認

教室および周囲の状況確認

安否確認・緊急連絡

行方不明者の確認

長崎県歯科医師会
長崎歯科衛生士専門学校へ連絡

●津波への対応●

日ごろの 対応

- ・避難場所・誘導方法を把握しておく
- ・情報源の確保（テレビ・ラジオ・ワンセグ等）

発生時の 対応

- ・ゆっくりと大きなゆれの場合は、津波の発生を考え避難の準備をする
- ・テレビやラジオ等の情報をもとに避難・誘導をする
- ・海岸からより遠くではなく、より高い場所に避難する
- ・渋滞の恐れがある地域では歩いて避難する

避難後の 対応

- ・津波は第2波・3波と繰り返してくるので、警報・注意報が解除されるまで海岸や河川敷には近づかない
- ・安全を確認後、長崎県歯科医師会・長崎歯科衛生士専門学校へ連絡する

●洪水時の避難●

履物

- ・スニーカー等、ひもで締められるものを履く
- ・裸足、長靴は禁物

水深

- ・ひざ上（水深 50 cm）以上の歩行は危険。ロープでお互いの体を固定して避難する

状況

- ・マンホール、側溝等水面下の状況が把握しにくいので長い棒などで安全を確認しながら避難する

● 台風・水害時の対応 ●

避難場所・連絡方法

日頃から避難場所・連絡方法を確認	過去の記録から危険区域を把握
------------------	----------------



気象情報（風）

風速 20m以上 車の運転は危険 身体を固定しないと転倒	風速 25m以上 立ってられない 屋外での行動は危険
---------------------------------	-------------------------------



気象情報（雨）

毎時 20 mm以上 どしゃ降り、側溝があふれる 毎時 30 mm以上 道路が川のようになる	降り始めから 100 mm以上 十分な注意が必要
---	--------------------------

（長崎県歯科医師会災害対策マニュアルより）

◇◇緊急連絡先◇◇

長崎歯科衛生士専門学校 (095) 848-5002
 長崎県歯科医師会 (095) 848-5311

.....

長崎歯科衛生士専門学校

教務部長	田中靖彦
教務委員	森川弥之
同	松尾信
同	松永常典
同	音山洋介
教務主任	藤田美津子
教務副主任	小林泰子
専任教員	小森結花
同	生田佳代
同	分部亜希子
同	中島真智子
同	牧山俊美

